

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471901254
法人名	特定非営利活動法人 優游の朋
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
訪問調査日	平成20年8月6日
評価確定日	平成20年9月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1471901254
法人名	特定非営利活動法人 優游の朋
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
所在地	239-0842 横須賀市長沢2-13-8 (電話) 046-839-3440

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年8月6日	評価確定日	平成20年9月30日

## 【情報提供票より】(平成20年7月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	11 人	常勤	9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8.5 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,900~79,800 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 500,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	300 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(7月 20日現在)

利用者人数	7 名	男性	名	女性	7 名
要介護1	名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低	81 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	パイフィックホスピタル
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは京浜急行のYRP野比駅から徒歩10分位、海岸線から100m程度入った場所  
にあり、2Fからは東京湾を介し房総半島が望め、日の出が見られる場所にある。民家を改  
造したスタイルの典型的なホームで、良くも悪くもそれが大きな特徴となっている。民家のメリ  
ットは病院式からの脱却が出来ている点であり、デメリットは機能性に尽きる。どの型のホーム  
を選ぶかは入居希望者の好みによるが、現時点での高齢者は民家型の住宅方式に郷愁  
と慣れを感じる人も多いはずであり、事実、入居希望も多いと云う。鍵を掛けない介護は完全  
に実施されていて、一人で外に出た場合にはそれとなく職員が見守りカバーしている。これ  
も交通量がさほど多くない地の利もある。職員の出入りがほとんど無いため連携も良く、こ  
のホームそのものの一家が出来あがっている。介護計画はICF方式を基本とし、いろいろな  
角度から個人像を作る工夫をしている。理念については職員全員で検討会を行い、KJ法で  
纏めたところオーナーの方針とほぼ同じ結論が出て、理念への理解が一層深まった。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>この1年間はヒヤリハット記載の促進によるケアの質の向上に取り組んだ。ヒヤリハットの記載をスタッフの研修テーマと捉え、書類のフォーマット作りから始めた。特養からヒヤリハットのフォーマットをサンプルとして検討会を開き、ここに合ったフォーマットを検討中である。ヒヤリハット記載の促進はフォーマットの完成を待たず、インシデントとして事例検討を行い、事例を積み重ねている。一緒に体験したことは2人で書いてもらうケースもある。こぼれ取りでケアの密度が増すことを期待している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者は自己評価を事業者自身を客観的に振り返る手段とし評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。評価のプロセスに於ける気付きや評価での指摘事項についてはミーティングで検討し、改善策を定めて改善に取り組んで行くことにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議については、横須賀市の方針で今年度から地域会議(従来のブロック会議)と事業所会議に分けて開催することとなり、事業所会議として既に2回実施した。メンバーは地域会議は横須賀市職員、地域包括支援センターの方、民生委員、事業者であり、事業所会議は町内会長、民生委員(2名)、利用者家族、事業者である。事業所会議のテーマはホームの概要、グループホームの説明、ご家族が「ひなたぼっこ」を選んだ理由などであり、次回は内部の見学、利用者との交流を考えている。会議の会場は近くの市民プラザの会議室を借りており、その市民プラザとの交流も始まっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会は年2回のイベント(バーベキューとクリスマス・忘年会)に併せて実施している。ご家族は非常に良く訪問してくれていて、少ない人でも週1回は来てくれいている。バーベキュー大会には退去したご家族も参加する。定員7名のホームなのに35名以上のバーベキュー大会となる。ご家族との関係が良好は証である。月1回は24時間の記録をお送りして見てもらい、来訪時の口頭でのお知らせ、電話連絡を行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>横須賀市は福祉に理解が深く、中学生の体験学習も盛んで受け入れを行っている。ボランティアでは畑の手入れ、三味線の方などが職員を介して時に応じて来てくれている。ご家族はいろいろ協力してくれているが、職員のご主人で元食堂を経営していた人がボランティアで手打ちうどんを利用者のために作りに来てくれる他、バーベキュー大会などでは率先してお手伝いしてくれている。町内会の祭礼、子ども神輿の接待、子ども110番の家など町内会活動にも参加し協力している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、平易な言葉で3か条にまとめて、玄関に掲示している。理念は「生活環境の確保」「能力に合わせた生活援助」「利用者及び家族との関係重視」であり、それに沿った利用者さん中心の介護が為されている。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の趣旨を理解し共有するため、理念をテーマとした勉強会研修会を実施している。民家同様、アットホームなケアが中心となっていて、理念に沿った家庭的で家族的な生活環境が構築されている。	○	今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所とのお付き合いは良好である。町内会の祭礼、子ども神輿の接待、子ども110番の家など町内会活動にも参加し協力している。地域自治会に加入し、行事などに参加していたが、役員の依頼があり、受けることにした。地域への啓蒙や施設の存在を知ってもらう良い機会と考えている。	○	今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を事業者自身を客観的に振り返る手段とし評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。評価のプロセスに於ける気付きや評価での指摘事項についてはミーティングで検討し、改善策を定めて改善に取り組んで行くことにしている。	○	今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、横須賀市の方針で今年度から地域会議(従来のブロック会議)と事業所会議に分けて開催することとなり、事業所会議として既に2回実施した。ご家族や地域の方の生の声をサービス向上に生かして行く。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横須賀市は福祉に熱心であり、連絡協議会が設置されており、見学会や研修会等で行き来する機会が多く協調体制が出来ている。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族会は年2回のイベント(バーベキューとクリスマス・忘年会)に併せて実施している。ご家族は非常に良く訪問してくれていて、少ない人でも週1回は来てくれいえる。月1回は24時間の記録をお送りして見てもらい、来訪時の口頭でのお知らせ、電話連絡を行っている。	○	今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明書に沿い、窓口及び担当者を明確にし、日常的にも意見交換が活発で、ご意見は運営に生かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は開設以来同じスタッフに必要に応じ追加採用しているが安定した慣れたスタッフが揃っている。新規の職員にはベテランがOJTで教育するなどしている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフには各自のレベルに応じた外部研修に参加させ、参加後、所内での伝達講習をしてもらい、全体のレベル向上に努めている。	○	今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横須賀市の連絡協議会、運営推進会議の地域会議、地域包括支援センターや業種の異なる福祉施設とネットワークを構築している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては必要に応じ工夫して対応しているが、実際には緊急の状態で急がれていて、ご家族の救済の意味合いでいきなり開始するケースの方が多い。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ひなたぼっこでは利用者と職員と云うよりはファミリーの雰囲気がある。職員の出入りがほとんど無いため連携も良く、このホームそのものの一家が出来あがっている。若い職員は利用者から学ぶことが多い。		今後も継続して実施して行く。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や生き方、日常生活のリズムなど本人本位で個別に対応している。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はICF方式を基本とし、いろいろな角度から個人像を作る工夫をしている。本人、家族の意見をベースにカンファレンス等で話し合い、アイデアを反映させている。	○	今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、状態変化が著しい場合は、期間に関わらず、現状に即した新たな計画を作成している		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	時間と人員のゆるす限り柔軟に対応している。空室利用型のショートを行っているが急な要望に応えられない点は残念である。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に充分説明し医療機関を決めてもらっている。月1回往診に来て頂く医師は神経内科で認知症にも詳しく、往診時はもちろん電話や緊急時にも気軽に相談できる。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居後なるべく早期に本人、医師、家族を交えた話し合いを持っている。その後、年1回程度この話し合いを持つようにし、繰り返し話し合うようにしている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについては職員会議や勉強会を度々開催し、充分徹底を図っている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位で1日が流れている。入浴や食事も基本的に自由を原則としている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みは充分把握出来ているし、リクエストにも応じる用意があり、下ごしらえや後片付けは出来る皆で行っている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を第1に考えて、時間やタイミングを測りながら入浴してもらっている。		今後も継続して実施して行く。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	意欲低下が著しく、そのレベルにない方も多いが、動ける方は役割を持ち、買い物や外食で気晴らしの機会もある。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者それぞれのレベル差がはげしいので動ける方を中心に個別に対応している。		今後も継続して実施して行く。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	実践している。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1～2度消防署の職員による避難誘導訓練を行ったり、地域の方とは相互に助け合える関係が出来ている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事と水分量に留意し、一人ひとりに合わせて提供している。月1回の血液検査を実施しているが、現在は問題はない。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既成の住宅の改良タイプのホームであるが、いろいろと細かい工夫や職員のマンパワーで安心できる空間作りを工夫している。季節毎に利用者と一緒に室内の飾り付けをして楽しんでいる。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使っていた馴染みの物品を持ち込んで、自由に、好きなインテリアを楽しんで頂いている。		今後も継続して実施して行く。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームひなたぼっこ
所在地 (県・市町村名)	239-0842 神奈川県横須賀市長沢2-13-8
記入者名 (管理者)	石田 久美子
記入日	平成 20年 7月 20日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その方らしさを支えていく上で基本となる運営理念がある。	○	08の改正により地域密着型サービスになった事に順ずるような項目を追加して作成したい
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	文章をまる暗記させることより、研修等で理解を深めるようにしている。	○	これを継続させたい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会、運営推進会議、町内会集会等の場で、理念や活動、認知症そのものへの理解をしていただけるよう取り組んでいる。	○	地域の中で認知症介護のプロとしての役割を担っていく活動を展開したい
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	開設時から、普通の「お隣さん」づきあいをさせていただいている。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に属し、役員を受けたり、庭を祭礼の休憩場所として活用させていただいている。		
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	周辺に独居の高齢者が住んでおり、散歩や回覧板を届ける際は目配りする等心がけている。	○	今後の職員研修で取り組みたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、事業者自身を客観的に受理帰り様々な場面に生かしている。外部評価は料金や実施の間隔を見直して頂きたい。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	横須賀市では地域会議と事業所会議の二本立てで、スタートしたばかりであるが、ご家族や地域の方の生の声はサービスに生かされてくると思う。	○	要介護者や認知症の方のみでなく、地域の中の介護者や特定高齢者にGH自体を地域資源として活用していただけるような、介護教室や相談窓口の設置
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横須賀市では、連絡協議会が設置されており、見学会や研修会等で行き来は多い。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	県協議会の研修で、よく取り上げられるテーマなので、管理者や職員は、順次参加し学んでいる。	○	財産の管理以外の問題で、困難な事例は多いと感じる
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、研修会への参加で、理解を深めている。		研修、勉強会への参加で理解を深めている
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて説明すると共に、疑問点は気軽に口に出していただける空気を作るように心がけている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に、意見を自由に表して生活されている。食事や趣好のリクエストによく反映されている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1回／月 24hの記録のコピーを送付している。面会時には口頭、電話等で蜜に連絡がとれている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明により、窓口及び担当者えお明確にしている。日常的にも意見交換は活発で、運営ならびにサービスに生かしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回／月 24hの職員会議、スタッフ研修はもちろん、毎日の申し送り時に様々な提案やディスカッションが可能。ケアに反映されている。。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活に合わせた勤務体制を組んでいる、変化に応じて柔軟な対応に勤めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配慮している。異動や離職も少ない。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりの経験や力量にあった内外の研修に積極的に参加してもらっている。スキルアップ、キャリアアップへの協力体制がある。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会、運営推進会議の地域会、地域包括や異なる業種の方々とネットワークを構築している。	○	地域会でお互いのイベントに呼び合う、ボランティア資源の共有などが話し合われている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	風通しのよい人間関係ができています。悩みや相談には個々に応じています。個別対応はとても大切と考えています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員の資格や技術の向上にとどまらず、人間としての成長や個々の生活の充実という域まで考えた支援をしている。		

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実際に面会する機会を何度か作り、お話を聴くように努めている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話相談から見学、面談、1日体験など、納得するまで何度でもお話を伺い、ニーズに答えられるよう努力している		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居のための相談以外でも、その方が困っている事の相談を解決策を見つけたり、負担を軽減できる手段を共に考えるよう努めている		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要に応じて工夫して対応している 実際には緊急を要している、ご家族救済の観点からの、いきなサービス開始になるケースはおおい		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ひなたぼっこでは、利用者⇄職員というよりも、ひなたぼっこファミリーといった雰囲気があり、利用者さんから学んだり助け合ったりする係わり方が定着している		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密に取っているので、ご家族との外出外泊や、ご自宅に帰られるおりなど、協力しあえる関係である		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している		○	家族会、運営推進会議を活用し、今まで以上にご家族のニーズわサービスに反映させたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃聞きとれた情報やご家族お話を参考に、手紙や電話の支援も継続して行っている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	幸い皆さん穏やかで優しい方ばかり、自然と助け合いの関係が成り立っている 万一トラブルが発生しても、さりげなく仲介にはいる力量を職員が備えている		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	係わりの必要性に係わらず、その後のお付き合いも大切にしている		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や生き方、日常生活リズムなど、本人本位で個別に対応している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方をまるごと支えていく努力をしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフのアセスメントは意見が活発 チームで努力を継続している		

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見をベースに カンファレンスや職員会議の場で話し合い、アイデアを反映させている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化が著しい場合には、期間に関わらず見直しをしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は ほぼ一時間ごとに経過が記入されており、全員情報共有している 日々、活かされている		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	時間と人員の許す限り、柔軟な対応をこころがけている	○ ショートは空室利用型なので、満床時には対応できない多機能にしたくても 採算面やハード面で困難
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	協力 連絡 連携体制をとりながら支援している	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問診療やマッサージ	グループホームの利用者は他のサービスの併用利用ができません
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市や地域包括と連携をとり、必要性有りのケースでは協働している	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の説明により、医療機関を決めている	
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	1回/月 往診のDRは神経内科で認知症にも詳しい 往診時はもちろん電話や緊急時も気軽に相談できる	
	○看護職との協働		



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	開所時から変わらず関わって下さっている看護師がいる 密な連絡連携がとれている	○	形ばかりの医療連携加算では、とてもターミナル期を支えきれないと切に感じるので 今後の介護保険制度での改正に期待している
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	44, 45に同じ		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居後 なるべく早期に ご本人 ご家族 医療機関とムンテラを行っている その後年に1回は繰り返し話し合う機会を設け 必要に応じて頻度を増やしている	○	法的整備が現状に追いついていないのでは？
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療 ご家族との連携をとりながら これまでも終末期のケアに取り組んできている	○	事業所独自のターミナルケアに関する指針のようなものを整備する必要がある
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	出来る限りの協力体制で臨んでいる		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議 勉強会を通じて 徹底している		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別性を尊重し 一人ひとりに合った対応や言葉かけをしている ご自分で選んだり 決定する場面を演出している		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位 個別に1日を送っている 入浴日/時間 食事等 基本的には自由に選択できる支援を心がけている		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	重度化に伴い、訪問美容を利用しているかたがほとんど、行きつけの美容室がある方や 希望者には個別対応している		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し リクエストにも応じる用意があり、下ごしらえや後片付けは活躍して下さいます		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒 タバコは現在希望者はないが、いつでも対応できる用意ありおやつは、買い物でご自分の好みで購入したり 希望のものを取り寄せる支援をしている		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や排泄パターンを把握した上で 自立方向へ。なるべく布の下着に近づけるように工夫している		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の希望を第一に考えて、時間やタイミングを計って入浴している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日常的に行っている		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	意欲低下が著しく、そのレベルにない方も多いが、可能な方はそれぞれ役割を持ち、買い物 外食 庭仕事と多彩な楽しみごとを個別に支援している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力量のある方は、自分の財布を持ち、小口のお金を自己管理されている その他の方は、家族の希望も踏まえ 当方で管理させていただいている	○	青年後見制度の後見人の意識がまちまちで、利用者の権利が阻害されるケースなど、後見人しだいで利用者の利益不利益が発生しないようにしてほしい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望にそって個別に対応している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1~2回 遠出の機会を作り、希望の場所へ出かけている お墓参りなどの希望も 都度個別に対応している		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度対応し、支援している		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間に制限なくいつでも気軽に来れる雰囲気がある 来訪者は割りと長時間居てくださるので、居心地は悪くないと思われる		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会 勉強会等で 具体的な行為を正しく理解してもらい いつでも確認できるファイルを定位置に置いている 今までに拘束の事例なし		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設時よりずっと 実践している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に気配りしている 安全がベースになれば、安心などありえない		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員 ご家族と話し合いながら 工夫して設置配置している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のためのルールづくりをしたり、職員全員が普通救命講習と防火管理者講習を受講している	○	スタッフ研修のなかで、ヒヤリハット事例の検討会をシートづくりから、再発防止まで自分たちで取り組みをはじめている
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が普通救命講習受講済みである 事業所内では通報訓練や避難訓練、初期消火訓練を定期的に行っている		
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1～2度 消防署署員による 避難誘導訓練を行っている 地域の方とは相互に助け合える関係である	○	隣近所の住民、町内会長 役員に、運営推進会議の構成員になっていただいているので、今後の会議でより理解を求めていきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時 家族会で話あい 説明している かかりつけ医師やケアマネ、他職種からも 意見を求めたり話し合いに同席してもらうなどしている		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサインの測定は毎日行っているが、数字に頼ることなく 異変の発見に努めている 職員間の速やかに伝達、共有できる方法をもっている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明のコピーをファイルし確認してもらい、併せて連絡ノートを活用している 管理の複雑な薬剤は、管理者が職員個々に説明している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝の牛乳に始まり、手作りヨーグルトやオリゴ糖をつかい、安易に薬に頼らず工夫している 職員は排泄や便秘について、よく理解している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝／夕2回のケアを基本に、ひとりひとりの状態に応じて支援している 日中はトイレに立った折に、無理せずケアをしている		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのよい食事と水分摂取量に留意している 一人ひとりに合わせて提供している 1回／月の血液検査上 問題なし		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	教科書的ではあるが、マニュアルがあり 日常的に予防に努めている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日常的に行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	普通の家庭より 家庭らしさに溢れていて、親しみやすいと思われる		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いながらも、物品の配置たマンパワーで安心できる空間づくりの工夫をしている 季節ごとに室内の飾りつけを利用者と一緒に楽しんでいる		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファァー テーブル 椅子の配置がえなど 臨機応変に工夫している		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用されていたなじみの物品を持ち込んでいただいている		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>都度 こまめに行っている</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>日本家屋をそのまま活用しているため ハード面は変えようがないのが現実だが、段差や階段がリハビリに活かされ 入居前よりADLのあがる方が多い</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>分かること できること こうすればできること等沢山あるので 極力自力で行えるように支援している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭が広く 散歩やお茶飲み、バーベキュー 家庭菜園と有効に活用している</p>		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)